

## 96期貸借対照表・損益計算書

富山県砺波市下中3番地3



日本製麻株式会社

## 貸借対照表

取締役社長 山村貴伸

(2024年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
流動資産	1,278,390	流動負債	900,539
現金及び預金	573,869	支払手形	78,111
受取手形	31,293	電子記録債務	82,825
売掛金	409,245	買掛金	160,341
商品及び製品	208,368	短期借入金	150,000
仕掛品	14,741	1年内償還予定の社債	160,000
原材料及び貯蔵品	22,299	1年内返済予定の長期借入金	150,199
未収入金	10,761	未払金	62,825
その他	7,811	未払費用	28,558
固定資産	948,898	未払法人税等	1,540
有形固定資産	686,228	未払消費税等	2,750
建物	155,535	賞与引当金	18,900
構築物	6,830	その他	4,487
機械装置	37,466	固定負債	298,063
車両運搬具	192	社債	70,000
工具器具備品	12,888	長期借入金	202,080
土地	464,898	リース債務	4,007
建設仮勘定	8,417	退職給付引当金	20,475
無形固定資産	8,064	長期預り保証金	1,500
リース資産	5,746	負債合計	1,198,603
その他	2,317	純資産の部	
投資その他の資産	254,605	株主資本	1,036,965
投資有価証券	136,238	資本金	100,000
関係会社株式	72,093	資本剰余金	564,343
差入保証金	18,873	その他資本剰余金	564,343
繰延税金資産	20,352	利益剰余金	378,184
その他	7,047	利益準備金	6,966
		その他利益剰余金	371,218
		繰越利益剰余金	371,218
		自己株式	△5,561
		評価・換算差額等	△8,280
		その他有価証券評価差額金	△8,280
		純資産合計	1,028,685
資産合計	2,227,289	負債・純資産合計	2,227,289

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

# 損益計算書

(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:千円)

科 目	金 額	金 額
売 上 高		2,358,577
売 上 原 価		1,702,492
売 上 総 利 益		656,084
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		570,608
営 業 利 益		85,476
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	19,763	
為 替 差 益	1,713	
雑 収 入	3,600	25,077
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	4,968	
社 債 利 息	1,149	
支 払 保 証 料	2,131	
受 取 手 形 売 却 損	46	
リ ー ス 解 約 損	2,066	
雑 損 失	2,123	12,484
経 常 利 益		98,069
特 別 利 益		
会 員 権 売 却 益	15	15
特 別 損 失		
投 資 有 価 証 券 売 却 損	415	
特 別 調 査 費 用	10,813	11,229
税 引 前 当 期 純 利 益		86,856
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	13,779	
法 人 税 等 調 整 額	12,535	26,314
当 期 純 利 益		60,541

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金	
		その他 資本剰余金	資本剰余金 合 計	利益準備金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金
当 期 首 残 高	100,000	564,343	564,343	5,866	322,774
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			—		△10,998
利 益 準 備 金 の 積 立			—	1,099	△1,099
当 期 純 利 益			—		60,541
自 己 株 式 の 取 得			—		
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			—		
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	1,099	48,443
当 期 末 残 高	100,000	564,343	564,343	6,966	371,218

	株 主 資 本			評 価 ・ 換 算 差 額 等		純資産合計
	利益剰余金 利益剰余金 合 計	自己株式	株主資本 合 計	その他 有価証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当 期 首 残 高	328,640	△5,438	987,546	△22,797	△22,797	964,748
当 期 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当	△10,998		△10,998		—	△10,998
利 益 準 備 金 の 積 立	—		—		—	—
当 期 純 利 益	60,541		60,541		—	60,541
自 己 株 式 の 取 得	—	△123	△123			△123
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—		—	14,517	14,517	14,517
当 期 変 動 額 合 計	49,543	△123	49,419	14,517	14,517	63,937
当 期 末 残 高	378,184	△5,561	1,036,965	△8,280	△8,280	1,028,685

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 資産の評価基準および評価方法

##### (1) 有価証券の評価基準および評価方法

子会社株式 移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

##### (2) デリバティブ等の評価基準および評価方法

デリバティブ 時価法

##### (3) 棚卸資産の評価基準および評価方法

商品、製品、原材料、仕掛品、貯蔵品

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

食品工場、不動産開発事業用の 定額法

有形固定資産(リース資産を除く)

上記以外の有形固定資産

(リース資産を除く)

定率法 但し、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法

また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

無形固定資産(リース資産を除く) 定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

#### リース資産

所有権移転ファイナンス・リースに係る資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リースに係る資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

長期前払費用 定額法

#### 3. 収益及び費用の計上基準

商品又は製品の販売に係る収益は、主に卸売又は製造等による販売であり、顧客との販売契約に基づいて商品又は製品を引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務は、商品又は製品を引き渡す一時点において、顧客が当該商品又は製品に対する支配を獲得して充足されると判断し、引渡時点で収益を認識しております。なお、商品または製品の販売は、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、出荷時点で収益を認識しております。

当社が代理人として商品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識しております。

#### 4. 外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、為替予約等の振当処理の対象となっている外貨建金銭債権債務については、当該為替予約等の円貨額に換算しております。

#### 5. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れの損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞 与 引 当 金	従業員に対して支給する賞与に充てるため、当期に負担すべき支給見込額を計上しております。
退 職 給 付 引 当 金	従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務見込額に基づき計上しております。退職給付引当金および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

6. ヘッジ会計の方法	繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を適用しております。
ヘッジ手段とヘッジ対象	外貨建取引の為替変動リスクを回避するため、先物為替予約取引(主として包括予約)を行っております。
ヘッジ方針	外貨建取引の為替相場の変動リスクを回避するために、外貨建買掛金および成約高の範囲内で為替予約取引を行うこととし、投機目的のための取引は行わない方針であります。
ヘッジ有効性評価の方法	ヘッジの有効性については、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額の累計を基礎に評価しております。

### 表示方法の変更に関する注記

#### (貸借対照表)

前事業年度において「支払手形」に含めて記載していた「電子記録債務」について、金額的に重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。なお、前事業年度において「支払手形」に含まれていた「電子記録債務」の金額は39,312千円であります。

#### (損益計算書)

前事業年度において「雑損失」に含めて記載していた「支払保証料」について、金額的に重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。なお、前連事業年度において「雑損失」に含まれていた「支払保証料」の金額は2,242千円であります。

### 会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当事業計年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。

#### 1. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の貸借対照表に計上した金額

繰延税金資産 20,352千円

(2) 見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

連結注記表(会計上の見積りに関する注記)の(2)に記載している内容と同一であるため、省略しております。

### 貸借対照表に関する注記

#### 1. 担保提供資産

担保に供している資産は次の通りであります。

財団を組成して担保に供している資産	建 物 ・ 構 築 物	162,365千円
	機 械 装 置	37,466千円
	土 地	451,940千円
	計	651,772千円
その他担保に供している資産	投 資 有 価 証 券	116,103千円
	土 地	12,958千円
	計	129,062千円

担保対応債務は次の通りであります。

長 期 借 入 金	206,732千円
(1年内返済予定分を含む)	
計	206,732千円

2. 有形固定資産の減価償却累計額		1,873,348千円
3. 関係会社に対する金銭債権および金銭債務	短期金銭債権	15,860千円
	短期金銭債務	15,567千円

#### 損益計算書に関する注記

1. 関係会社との取引高	営業取引高	
	売上高	81,398千円
	仕入高	195,522千円
	その他の営業取引高	366千円
	その他の営業外取引高	15,560千円

#### 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類および株式数	(普通株式)	7千株
---------------	--------	-----

#### 税効果会計に関する注記

##### 1. 繰延税金資産の発生主な原因別の内訳

繰延税金資産	
賞与引当金	6,482千円
未払費用	2,976千円
減損損失	9,400千円
退職給付引当金	7,023千円
投資有価証券評価損	14,295千円
その他有価証券評価差額金	2,840千円
その他	3,855千円
繰延税金資産小計	46,873千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△26,520千円
評価性引当額小計	△26,520千円
繰延税金資産合計	20,352千円

#### 関連当事者との取引に関する注記

##### 1. 子会社および関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	サハキットウィサーン カンパニーリミテッド	100% (注)1	役員の兼任 0名	自動車用品の購入、 原材料の支給(注)2	195,522	買掛金 未払金	15,432 134

(注) 1. 議決権比率は緊密な者等の所有割合51.1%を含めて記載しております。

2. 取引条件および取引条件の決定方針等

価格等の取引条件は、市場の実勢価格等を参考にして、その都度交渉のうえで決定しております。

#### 収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報は、連結注記表の収益認識に関する注記に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

#### 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	280円60銭
1株当たり当期純利益	16円51銭

#### 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

連結貸借対照表

(2024年3月31日現在)

(単位:千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	3,205,125	流 動 負 債	1,170,301
現金及び預金	1,501,675	支払手形及び買掛金	385,802
受取手形及び売掛金	726,584	電子記録債務	82,825
棚卸資産	935,111	短期借入金	150,000
その他	42,503	1年内償還予定の社債	160,000
貸倒引当金	△749	1年内返済予定の長期借入金	150,199
固 定 資 産	1,418,230	未払法人税等	29,795
有形固定資産	1,152,107	賞与引当金	23,352
建物及び構築物	176,736	その他	188,327
機械装置及び運搬具	64,331	固 定 負 債	572,899
土地	860,995	社 債	70,000
建設仮勘定	14,665	長期借入金	202,080
その他	35,379	リース債務	4,007
無形固定資産	34,808	繰延税金負債	69,963
リース資産	5,746	退職給付に係る負債	225,348
ソフトウェア	5,015	長期預り保証金	1,500
その他	24,046	負 債 合 計	1,743,200
投資その他の資産	231,314	純 資 産 の 部	
投資有価証券	136,238	株 主 資 本	1,623,431
関係会社出資金	11,903	資 本 金	100,000
長期貸付金	5,900	資 本 剰 余 金	564,343
繰延税金資産	55,126	利 益 剰 余 金	964,649
その他	22,144	自 己 株 式	△5,561
		その他の包括利益累計額	225,480
		その他有価証券評価差額金	△8,280
		為替換算調整勘定	233,760
		非支配株主持分	1,031,242
		純 資 産 合 計	2,880,154
資 産 合 計	4,623,355	負 債 ・ 純 資 産 合 計	4,623,355

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:千円)

科 目	金	額
売 上 高		4,334,457
売 上 原 価		3,289,124
売 上 総 利 益		1,045,333
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		739,516
営 業 利 益		305,817
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	9,655	
為 替 差 益	12,617	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	121	
雑 収 入	6,125	28,520
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	6,178	
支 払 保 証 料	2,131	
リ ー ス 解 約 損	2,066	
雑 損 失	2,185	12,561
経 常 利 益		321,776
特 別 利 益		
会 員 権 売 却 益	15	15
特 別 損 失		
投 資 有 価 証 券 売 却 損	415	
特 別 調 査 費 用	10,813	11,229
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		310,563
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	59,284	
法 人 税 等 調 整 額	19,313	78,597
当 期 純 利 益		231,966
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		104,044
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		127,921

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:千円)

	株 主 資 本				株主資本合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	
当 期 首 残 高	100,000	564,343	847,726	△5,438	1,506,631
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△10,998		△10,998
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			127,921		127,921
自 己 株 式 の 取 得				△123	△123
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額(純 額)					—
当 期 変 動 額 合 計	—	—	116,923	△123	116,799
当 期 末 残 高	100,000	564,343	964,649	△5,561	1,623,431

	その他の包括利益累計額			非 株 主 支 持 配 分	純 資 産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	為 替 換 算 調 整 勘 定	その他の包括 利益累計額合計		
当 期 首 残 高	△22,797	160,525	137,728	867,008	2,511,368
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当					△10,998
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益					127,921
自 己 株 式 の 取 得					△123
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額(純 額)	14,517	73,235	87,752	164,234	251,987
当 期 変 動 額 合 計	14,517	73,235	87,752	164,234	368,786
当 期 末 残 高	△8,280	233,760	225,480	1,031,242	2,880,154

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

## 連結注記表

### 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### 1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社……………2社

サハキット ウィサーン カンパニー リミテッド

サハキット ウィサーン ジャパン株式会社

#### 2. 持分法適用に関する事項

持分法を適用した関連会社数…1社

会社の名称

PCP Sahakit India Limited Liability Partnership.

#### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社であるサハキット ウィサーン カンパニー リミテッドおよびサハキット ウィサーン ジャパン(株)の決算日は12月31日であり、連結決算日との差は3ヶ月以内であるため、当該連結子会社の事業年度に係る財務諸表を基礎として連結を行っております。なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準および評価方法

###### ①有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

###### ②デリバティブ

時価法

###### ③棚卸資産

主として移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### ①有形固定資産

主として定額法

(リース資産を除く)

また、当社において2007年3月31日以前に取得したのものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

###### ②無形固定資産

定額法

(リース資産を除く)

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

###### ③リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

当社は、債権の貸倒れの損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。また、在外子会社は個別の債権の回収可能性を検討して計上しております。

賞与引当金

当社は、従業員に対して支給する賞与に充てるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

##### (4) 退職給付に係る負債の計上基準

当社および連結子会社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりであります。

商品又は製品の販売に係る収益は、主に卸売又は製造等による販売であり、顧客との販売契約に基づいて商品又は製品を引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務は、商品又は製品を引き渡す一時点において、顧客が当該商品又は製品に対する支配を獲得して充足されると判断し、引渡時点で収益を認識しております。なお、商品または製品の販売は、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、出荷時点で収益を認識しております。

当社が代理人として商品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識しております。

(6) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産および負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定および非支配株主持分に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を適用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象 外貨建取引の為替変動リスクを回避するため、先物為替予約取引(主として包括予約)を行っております。

ヘッジ方針 外貨建取引の為替相場の変動リスクを回避するために、外貨建買掛金および成約高の範囲内では為替予約取引を行うこととし、投機目的のための取引は行わない方針であります。

ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジの有効性については、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額の累計を基礎に評価しております。

## 表示方法の変更に関する注記

### (連結貸借対照表)

前連結会計年度において「支払手形及び買掛金」に含めて記載していた「電子記録債務」について、金額的に重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。なお、前連結会計年度において「支払手形及び買掛金」に含まれていた「電子記録債務」の金額は39,312千円であります。

### (連結損益計算書)

前連結会計年度において「雑損失」に含めて記載していた「支払保証料」について、金額的に重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。なお、前連結会計年度において「雑損失」に含まれていた「支払保証料」の金額は2,242千円であります。

## 会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結計算書類にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。

### 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結貸借対照表に計上した金額

繰延税金資産 55,126千円

(2) 見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

事業計画により見積もられた将来の課税所得に基づき、繰延税金資産を計上しており、事業計画における業績予測については、販売市場の需要予測及び原料価格の市況推移の見込み等といった重要な仮定を用いております。

繰延税金資産の回収可能性は、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第26号)で示されている会社分類の妥当性、将来の課税所得の十分性、将来減算一時差異の将来解消見込年度のスケジューリング等に依存し、実際に生じた解消時期及び解消金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度において繰延税金資産を認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。

## 連結貸借対照表に関する注記

### 1. 担保提供資産

担保に供している資産は次の通りであります。

財団を組成して担保に供している資産	建 物 及 び 構 築 物	162,365千円
	機 械 装 置 及 び 運 搬 具	37,466千円
	土 地	451,940千円
	計	651,772千円
その他担保に供している資産	建 物 及 び 構 築 物	14,370千円
	投 資 有 価 証 券	116,103千円
	土 地	386,607千円
	計	517,081千円

担保対応債務は次の通りであります。

長期借入金(1年内返済予定分を含む)	206,732千円
計	206,732千円

### 2. 有形固定資産の減価償却累計額

3,178,884千円

## 連結損益計算書に関する注記

### 1. 売上高のうち、顧客との契約から生じる収益の額

4,334,457千円

## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### 1. 発行済株式の種類および総数

(普通株式)

3,673千株

### 2. 配当に関する事項

#### ①配当金支払額等

2023年6月28日開催の定時株主総会決議による配当に関する事項

普通株式の配当に関する事項

・配当の総額	10,998千円
・1株当たり配当額	3円
・基準日	2023年3月31日
・効力発生日	2023年6月29日

#### ②基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2024年6月27日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次の

通り付議する予定であります。

普通株式の配当に関する事項

・配当金の総額	14,663千円
・1株当たり配当金	4円
・基準日	2024年3月31日
・効力発行日	2024年6月28日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取り組み方針

- ① 当社グループは、主に食品事業、マツ事業の設備投資計画に照らし、銀行等金融機関からの借入により必要な資金を調達しております。また、一時的な余資は安全性の高い金融資産等で運用し、短期的な運転資金については銀行借入により調達しております。
- ② デリバティブ取引は内部管理規程に従い、投機的な取引は行わない方針であり、為替変動リスクの軽減のため利用しております。

#### (2) 金融商品の内容およびリスクならびにリスク管理体制

- ① 営業債権である受取手形及び売掛金は、取引先の信用リスクに晒されており、与信管理規程に沿って回収および残高の管理を行い、リスク低減を図っております。
- ② 投資有価証券は主として取引先企業との業務等に関連する長期保有目的の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されており、毎月時価の状況を把握し、保有状況を見直しております。

- ③ 営業債務である支払手形及び買掛金並びに電子記録債務は全て1年以内の支払期日であります。また、その一部には輸入に伴う外貨建てのものが有替の変動リスクに晒されており、リスク軽減のため相場の状況により先物為替予約取引を行っております。
- ④ 借入金および社債は、主に短期のものは運転資金であり、長期のものは設備投資に必要な資金調達を目的としたものであります。
- ⑤ リース債務は、主に設備投資に係る資金調達であります。
- ⑥ デリバティブ取引は通常の営業過程における輸出入取引の為替相場の変動によるリスクを軽減するための先物為替予約取引(主に包括予約)であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計方針に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格が存在しない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日(当期の連結決算日)における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次の通りであります。なお、市場価格のない株式等は、次表に含めておりません((注)2参照)。

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 投資有価証券 その他有価証券	136,098	136,098	—
資 産 計	136,098	136,098	—
(1) 社債 (1年内償還予定の社債を含む)	230,000	228,715	△1,284
(2) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	352,279	352,140	△138
(3) リース債務 (1年内返済予定のリース債務を含む)	6,310	6,310	—
負 債 計	588,589	587,166	△1,422

(注) 1. 「現金及び預金」「受取手形及び売掛金」「支払手形及び買掛金」「電子記録債務」「短期借入金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 市場価格のない株式等

(単位:千円)

区 分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	140

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(1) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価: 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価: 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価: 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

## (1) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産および金融負債

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 <sub>    </sub> 其他有価証券 <sub>    </sub> 株式	136,098	—	—	136,098
資産計	136,098	—	—	136,098

## (2) 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産および金融負債

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
社債(1年内償還予定の社債を含む)	—	228,715	—	228,715
長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	—	352,140	—	352,140
リース債務 (1年内返済予定のリース債務を含む)	—	6,310	—	6,310
負債計	—	587,166	—	587,166

(注) 時価の算定に用いた評価技法およびインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

社債、長期借入金およびリース債務

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入、社債の発行、またはリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

**賃貸等不動産に関する注記**

当連結会計年度末における賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

**収益認識に関する注記**

## 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他	合計
	産業資材事業	マット事業	食品事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	540,307	2,470,583	1,320,670	4,331,562	—	4,331,562
その他の収益	—	—	—	—	2,895	2,895
外部顧客への売上高	540,307	2,470,583	1,320,670	4,331,562	2,895	4,334,457

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業を含んでおります。

2. その他の収益は、リース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入等であります。

## 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

## (1) 産業資材事業

産業資材事業においては、主に黄麻製品及び大型包装資材等の販売を行っております。このような製品の販売については、製品を顧客に引き渡した時点又は顧客が検収した時点で収益を認識しております。

MA米用フレコン袋の販売については他の当事者が関与しております。MA米用フレコン袋の製造、出荷・配送の一連の作業は他の当事者により行われており、当社は在庫リスク及び価格設定の裁量権を有しておりません。当該当事者により商品が提供されるように手配することが当社の履行義務であり、したがって、代理人として取引を行っていると判断しております。MA米用フレコン袋に関する取引の対価は、船積み後、概ね1か月以内に受領しており、当該顧客との契約に基づく債権について、重要な金融要素の調整は行っておりません。

なお、製品の販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する製品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

(2) マット事業

マット事業においては、主に自動車用マットの製造販売を行っております。このような製品の販売については、製品を顧客に引き渡した時点又は顧客が検収した時点で収益を認識しております。

(3) 食品事業

食品事業においては、スパゲッチ、マカロニ、レトルトソース等の製造及び販売を行っております。このような製品の製造及び販売については、製品を顧客に引き渡した時点又は顧客が検収した時点で収益を認識しております。フスマの販売については他の当事者が関与しております。フスマの製造、出荷、配送の一連の作業は他の当事者により行われており、当社は在庫リスク及び価格設定の裁量権を有しておりません。当該当事者により商品が提供されるように手配することが当社の履行義務であり、したがって、代理人として取引を行っている判断しております。フスマに関する取引の対価は、概ね1か月以内に受領しており、当該顧客との契約に基づく債権について、重要な金融要素の調整は行っておりません。

なお、製品の販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する製品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

顧客との契約から生じた債権の残高

(単位：千円)

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	595,312	726,584

1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	504円34銭
1株当たり当期純利益	34円89銭

重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。